

未来社会創造事業 探索加速型探索研究
事後評価結果

1. 領域

「超スマート社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

異分野共創型の AI・シミュレーション技術を駆使した健全な社会の構築

3. 研究開発課題名

感染リスク共存社会を支える CPS モデルによる意思決定支援基盤の構築

4. 研究開発代表者名(機関名・役職は評価時点)

間辺 利江(名古屋市立大学大学院医学研究科 准教授)

5. 評価結果

評点: A (優れている)

総評:

本研究開発課題は、異分野共創型 CPS モデルによる新興感染症への意思決定支援基盤を構築し、新興感染症リスクとの共存社会の実現を目指すものである。ハザードマップや感染リスクアラート等を人々に届けることで、感染リスク回避行動の為に意志決定を支援する。

探索研究において、COVID-19 流行監視・リスク情報監視システムの構築に取り組み、提案モデルの有用性を示したことは評価できる。

システム利用に向けて、自治体との連携体制の構築を進め、医療現場や政府施策への提言、各種講演会での情報発信など、社会実装に結びつけるための活動を展開したことは評価できる。専門家ではない IT 弱者にも配慮した基盤の使い方を提案した点も、優れた成果と認められる。

今後は、構築するシステムが社会のニーズに即して有効に機能し、社会にインパクトを与えるシナリオに向けて研究開発が発展することを期待する。

以上